

平成29年度 加古川中央市民病院

地域連携会議のご案内

日時 平成29年6月8日(木) 18:00~21:00

場所 加古川プラザホテル

学術講演会、意見交換会の2部構成を予定しています。



学術講演会

[演題] 厚生行政の風を読む ~ 地域包括ケアの成功の鍵を考える

※1時間を予定 ※日医生涯教育認定講座の単位取得を申請中



東京医科歯科大学大学院 医療経済分野
教授 川渕 孝一先生

経歴
1983年3月 一橋大学商学部を卒業。
1987年6月 米国シカゴ大学経営大学院で経営学修士号(MBA)を取得。
1989年8月 民間病院・企業を経て、厚生省国立医療・病院管理研究所
(現在の国立保健医療科学院)医療経済研究部勤務。
1995年7月 同研究所 主任研究官となる。
1998年3月 厚生省を退職。
1998年4月 日本福祉大学経済学部教授及び日医総研の主席研究員、
経済産業省研究所ファカルティーフェロー、スタンフォード大学客員研究員を兼任。
2000年4月 東京医科歯科大学大学院 教授となり現在に至る。



地域連携室からのご挨拶

7月に開院し、あっという間に新年度を迎えるました。毎月約2,500名の患者さんのご紹介と共に約1,500名の方にご入院を頂いている状況でございます。そのような中で、地域医療機関の皆様に多くの患者さんの退院後の支援をお願いさせて頂いておりますが、いつも大変親切で丁寧なご対応に感謝しております。

さて、今年度も地域連携会議を開催いたします。東播磨医療圏における地域包括ケアシステムの構築に向けて、地域医療機関の皆様と更に連携を強めていきたく考えておりますので、是非ご参加くださいますようお願い申し上げます。

また、当院の地域連携につきましてご指導・ご鞭撻も頂けると、幸甚に存じます。平成29年度も引き続きよろしくお願い申し上げます。

きらり

vol. 6
2017年4月

加古川市民病院機構 理念

いのちの誕生から生涯にわたって地域住民の健康を支え、
頼られる病院であり続けます



Contents

巻頭言 新年度を迎えて	2	新入職医師紹介	7
診療科紹介	3	連携室ニュース	8
『特集』臨床検査室・栄養管理室のご紹介	4-5		
登録医紹介	6		



巻頭言

新年度を迎えて

加古川市民病院機構 理事長
おおにしよしお
加古川中央市民病院 院長 大西 祥男



平素は、当院の運営に格別のご理解ご協力をいただき誠に有難うございます。

平成28年7月1日、加古川中央市民病院が開院し9ヶ月が経過いたしました。当初は色々とご不便をおかけしましたが、今では順調に診療ができております事、近隣医療機関の皆様のご支援のおかげと感謝申し上げます。

昨今の医療を取り囲む環境は目まぐるしく変化し、益々厳しさを増してきています。「社会保障と税の一体改革」に沿って推し進められている2025年改革シナリオでは、毎年のように診療報酬や介護報酬改定がなされ、来年2018年にはより厳しいと予想されている診療報酬・介護報酬同時改定を迎えます。団塊の世代が75歳以上になる2025年は通過点であり、その後に続く2035年、2040年に向けて社会の変化に対応した自院の役割をしっかりと認識することが強く求められています。昨年に策定された地域医療構想に沿って、年度末には東播磨圏域構想区域における調整会議が開かれ地域医療構想を推進する協議が始まったところです。また、新専門医制度整備については、医師の偏在による地域医療への影響や基本領域学会との関係などから開始が1年遅れ、再検討の結果ようやくその骨格が見えてきました。総合診療専門医養成やサブスペシャリティの問題など課題は残っていますが、次年度からの新専門医制度に向けてしっかりと準備が必要です。

新年度を迎えてハードが整った今、医療技術、安全、満足度(患者、職員)、財務の4つの視点で改めて医療の質にこだわり、①救急・専門医療の充実 ②チーム医療の推進 ③人材確保・人材育成に注力してまいります。特にチーム医療の推進において、院内の多職種連携のみならず行政、地域社会、在宅医療を担う医療機関や介護施設等、院外の多職種の皆様との連携を一層強化し、この地域における地域完結型医療、地域包括ケアシステムの構築に向けて高度急性期・急性期を担う病院としての役割を果たしていきたいと思います。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

腫瘍・血液内科

腫瘍・血液内科では、「治療適応の有無を判断すること」が診療の大部分を占めています。疾患の根治性や予後、年齢、全身状態や併存疾患、セルフケア能力の有無やケアギバーの存在、費用対効果も念頭に社会復帰の可能性など、様々な角度や多職種の視点から診療の各局面において治療適応の有無を判断しています。

診療内容は多岐に渡りますが、大部分が血液がんの患者さんであり、最近では肉腫など難治性固形がんの紹介患者さんも増えてまいりました。血液がんに限って言えば、昨年の新規紹介患者数は150名を超えており、明石を除く東播地域で新規に発症した血液がん患者さんの90%以上が当科を受診されたことになります。

適応のある患者さんに対しては主に抗がん薬治療が行われますが、近年抗がん薬治療の主体は外来での治療へと移行しつつあり、昨年当科では500件を超える外来化学療法を行いました。難治性血液がんの患者さんに対しては自家移植のみならず血縁者間同種造血幹細胞移植も行っています。

「生存率の向上」は、がん診療における技術的側面の指標の一つに過ぎません。当科開設以降の一貫した診療理念は、「治療による予後や症状の改善を通じて、患者さんが社会復帰し、直接あるいは間接的に社会貢献が行えること」です。患者さんの集約化を通じて、東播地区におけるがん診療の質の向上に努めてまいりますので、これからも皆様のご理解とご協力の程、宜しくお願い申し上げます。



腫瘍・血液内科 主任科部長

おかむらあつお
岡村篤夫



形成外科 主任医長
いわたけひろあつ
岩谷博篤



形成外科の対象範囲と疾患は多岐にわたっており、代表的な疾患としては熱傷、顔面外傷(顔面骨骨折を含む)、口唇口蓋裂・合指症・多指症・内反症・折れ耳や埋没耳・臍突出症などの先天奇形、皮膚・皮下腫瘍、傷跡・ケロイド、褥瘡・足壘瘡などの難治性潰瘍、といったものがあります。その他、当院では静脈瘤、リンパ浮腫に対する治療も行っております。患者さんにわかりやすい説明を行い、その上でしっかりと治療を行うことを心がけております。

先ほど説明させていただきました疾患のほかにも、形成外科としてお手伝いできることがあると思いますので、今後は積極的に地域の先生方に発信していく所存です。形成外科の対応疾患かどうか迷った場合でも、遠慮なくご紹介いただければ幸いです。

形成外科

秋篠 達也

診療支援部副部長
(兼)臨床検査室主任技師長



臨床検査室 の紹介

当院の検査室は、外来診療各科と同じ2階フロアに検体検査部門と生理検査部門があり、外来患者さまが検査のために足を運びやすい構造となっています。また、病理検査部門は手術室と同じ4階フロアにあり、直ちに手術材料が検査できるようになっています。さらに、生理検査部門では心電図、肺機能はじめ、エコ検査、脳波、筋電図、聴力、ABR、SASなど、ご紹介患者さんの多種多様な検査に対応できる体制を整えています。そして、当院の特徴として、採血室が検体検査室に併設されており、最新鋭の検査機器(血液、生化学、免疫、輸血、尿一般、微生物)や検査システムの導入と合わせて、採血から結果送信まで最短約30分で報告出来るように創意工夫をしています。新病院になって、患者さんからは「待ち時間が短くなった!」というお声や、担当医からは「もう結果が出たの?」というお声をいただき大変うれしく思っています。

さて、当検査室は約50名の臨床検査技師を抱えますが、特に若手技師の育成(認定資格取得やOJT教育など)に力を入れており、学会発表や各種学術活動にも熱心に取り組んでいます。因みに、検体部門では認定技師(輸血、血液、微生物；計6名)、生理部門では超音波検査士(心臓、腹部、血管など計22名；重複あり)、病理部門では細胞検査士(2名)、その他では糖尿病療養指導士(2名)や緊急臨床検査士(4名)などを含めて全28資格、合計56名(重複あり)の認定技師や専門技師らが検査に当たっています。また、2016年度は15演題の学会発表を行い、知識や技術を習得するための学会、研修会参加も平均7回／年と意欲的に取り組む中、東播磨地域における臨床検査室の牽引役としての役割も期待されています。これからも「迅速・正確・安全」をモットーにスタッフ全員が高い志を持って業務に励み、近い将来には『ISO 15189(検査室の品質と精度の保証)』の取得を目指すに取り組んで参りたいと思います。

チーム医療の質を高める

feature

特集

臨床検査室・栄養管理室のご紹介

栄養管理室は、患者さんの治療を栄養面から支えることを目的としています。

入院患者さんに対しては、管理栄養士を病棟担当制にすることで、医師やその他の医療職種とチームとして治療に参画し術後の食事開始時期の調整、食事や経腸栄養材の提案を積極的に行っています。入院から退院まで日々状態が変わりますので毎日喫食状況を確認し、治療の副作用や嚥下状態によって食べられない患者さんのモニタリングをしています。食事の個別調整では、調理担当者と連携を取り単に補食を付けるだけではなく選択食や抗がん剤治療中の方用にトライ食として「たこ焼き」や「ぎょうざ」、「うどん」等も用意しています。食べられなかった患者さんから食べられたから普通の食事にトライしてみるとの声を頂いております。献立の考案から調理提供方法まで一食一食にこだわりを持って安心安全な食事提供を行ってまいります。

栄養指導では患者さんの食事や病気に対する不安やショック、怒り等の感情的問題を取り除くこと、食の知識取得ができ、ご自分が主体的に自分のライフスタイルに合わせた正しい食生活が行えることを目標に教育を行っています。患者さんには自分自身の食生活をはじめとする生活習慣を振り返り治療の必要性に気づき、自己管理能力を高められるように勇気づけ、援助しています。「栄養指導室」は院内表示では「栄養相談室」と案内されており食事に対するお悩み相談というカウンセリングの意味合いを持たせています。気軽に相談できる雰囲気作りをしているところも私たちの特徴の一つです。

患者教育を当院ご利用の患者だけでなく地域住民や連携先の医療機関の患者さんにも提供できるように市民講座や患者会等での講演も積極的に行っています。

私たちは管理栄養士として責任を持って患者さんに寄り添い、栄養面から創傷治癒、QOL向上に貢献致します。

入院外来を問わず地域住民の健康を食から支え、よりよい医療に貢献致したいと考えております。
今後ともよろしくお願い申し上げます。

志水 晃介

栄養管理室主任技師長

栄養管理室 の紹介



登録医

紹介

当院と連携いただいている登録医療機関をご紹介します。



もと皮膚科クリニック

診療科 皮膚科

駐車場台数 15台

所在地 加古川市尾上町口里19-1

TEL. 079-456-7220



院長 佐々木一先生

平成13年に山陽電鉄浜の宮駅のすぐ北に、もと皮膚科クリニックを開院させていただいてから、今年で16年目を迎えました。加古川中央市民病院との病診連携では、特に皮膚科・形成外科の先生方に日頃より大変お世話になることが多く、御紹介させて頂いた患者さんをいつも丁寧に診察して頂き、治療経過や診断結果についても詳細な御報告を頂き、とても感謝しております。

急速な高齢化が進む中、当院に来院される患者さんも、80歳以上の高齢者が年々多くなっております。杖や車椅子での移動を余儀なくされる患者さんも増え、今後出来る限り御高齢の方に配慮した診察を行っていきたいと考えております。完全なバリアフリーとまではいきませんが、クリニックの玄関の段差をなくしスロープ

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00~12:00 (土曜日9:00~13:00)	●	●	●	—	●	●	—
午後16:00~19:00	●	●	—	—	●	—	—



にした他、室内では、車椅子の方と介護者の方が移動しやすいように、スペースを出来るだけ広くとるようにしております。患者さんの待ち時間の長さや、現場スタッフのマンパワーの不足等を今後どのように改善すれば良いか、課題は少なからずありますが、患者さんと共に悩み、共に泣き、共に笑うといった心の通うクリニックを目指し、日々の診療を行っていきたいと思っております。今後も

加古川中央市民病院との病診連携を大切にし、患者さんの健康回復に努めたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00~12:00 (土曜日9:00~13:00)	●	●	●	—	●	●	—
午後16:00~19:00	●	●	—	—	●	—	—



うえだ皮フ科クリニック

診療科 皮膚科

駐車場台数 20台

所在地 加古郡播磨町野添1654-5

TEL. 078-941-1120



院長 堀川達弥先生

土山駅の北西で徒歩3分のところにあるうえだ皮フ科クリニックですが、昨年4月に当院院長に就任しました堀川達弥です。よろしくお願いします。前院長の上田正登先生が昨年1月に逝去されました。が、後任に私を指名していただき当院に参りました。全ての皮膚疾患に対応してゆくという前院長の意思をついで、この地域の皮膚科医療に貢献できるように頑張っております。

皮膚科診療では目で見て診断する視診が大事ですが、ダーモスコピーや用いた皮膚腫瘍の診断、金属パッチテストや必要であれば生検も行っています。その他、小さな皮膚腫瘍の摘出、感染性粉瘤の切開などの小手術やNarrowband UVBやエキシマレーザーを用いた光線治療なども行っています。当院で対応できない

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00~12:00 (土曜日9:00~13:00)	●	●	●	—	●	●	—
午後15:00~18:30	●	●	●	—	●	—	—



症例は加古川中央市民病院に紹介させていただいておりますが、丁寧に診療していただき、またその経過や結果を知らせていただき、大変感謝しています。今後ともよろしくお願い申し上げます。

新入職医師紹介

平成29年度を迎えるました。当院では、59名の新しい医師(うち初期臨床研修医18名)の方々を迎えて、医師全体では190名となりました。今年度も地域医療の充実に向けて貢献してまいります。

所 属	役 職	氏 名	所 属	役 職	氏 名
消化器内科	主任科部長	おか岡 邦一	小児科	専攻医	よしだ阿寿美
消化器内科	医長	ひら平祐一	外科	医長	あべ紘一郎
消化器内科	専攻医	きた北代隼	外科	医長	こう上月章史
循環器内科		いち市堀俊	外科		ひさの久野晃路
循環器内科		しも下浦広之	外科		まえ前田詠理
循環器内科	専攻医	その園田祐介	心臓血管外科		みやけ三宅泰一郎
循環器内科	専攻医	ふじ藤井寛之	小児外科	医長	やまもと山本真由子
循環器内科	専攻医	いち市川靖士	整形外科	専攻医	よしもと吉本奈央
呼吸器内科		ふじ藤井眞央	眼	医長	おおにし大西健
呼吸器内科	専攻医	やたに矢谷敦彦	眼	専攻医	ささき佐々木信之
糖尿病・代謝内科		はり播悠介	耳鼻咽喉科	専攻医	おぎの荻野了子
腫瘍・血液内科		の能せ拓	皮膚科		かわ川上由香里
リウマチ科	専攻医	きた北山翠	泌尿器科		やまの山野志真
腎臓内科		きく菊田淳子	放射線科	医長	おおにし大西仁
腎臓内科	専攻医	やま山谷哲史	放射線科	専攻医	いぬかい犬養純子
腎臓内科	専攻医	こ小坂恭子	麻酔科		つげえりか柘植江里香
神経内科	専攻医	たけ武田涼輔	精神神経科	専攻医	かがのい加賀野井秀和
小児科	医長	こ小寺孝幸	精神神経科	専攻医	しんどう新藤良太
小児科	医長	にし西田浩輔			
小児科	専攻医	きど城戸拓海			
小児科	専攻医	ほんごう本郷裕斗			

初期臨床研修医の紹介

うめ梅	むら村	かおる薫	そ曾谷	やすゆき之	まつ松	こう志玲	うえ上河	さ沙紀	つるの野
おお大織桂	にし西邊	ひろ宏貴	たか高田	まさ雅和	み三澤	みず瑞玲	かわた瀧林	ひろ啓実	なかい井
おり織桂	へ邊	たか貴希	たか牧	すみ純仁	よね米新谷	みつ瑞玲	たきた瀧林	おととみ佳	なか中
かづら桂	だい大	かず希	ひと仁	ゆきめ	ざわ澤あらしや	か華と敏夫	たきた瀧林	か貴佳	(歯科)研修医